

松本議員

越前大仏門前町の活性化について

問10月に行われた「うまいもん祭」など、今年数回行われた門前町でのイベントによって、限定ではあるが、賑わいが戻ってきた。勝山市の観光を振興する際に、駐車場の広さ、大きなトイレ施設などの建築物は利用価値が高いのではないか。今年、門前町に2店が出店したが、一挙に出店を加速させるならば、越前大仏周辺地域が活性化されるのではないか。

答観光協会主催の勝山うまいもん祭が秋に初めて門前町で開催され、多くの人が訪れた。このようなイベントを開催する中、わがまち元気醸成事業等でスイーツの開発に取り組んでいる方々が門前町の一角で活発な活動を行っており、他にも出店したいと希望されている団体もあると聞いている。市民団体の活動の場として、また、観光客をもてなす場として、イベント以外での取り組みも重要であるため、今後、さらに越前大仏門前町が活性化し、その結果として、多くの観光客が越前大仏に訪れることを期待している。

その他の質問

・観光案内所の設置について
・市立図書館の開館時間について
・市内の文化財保護について

中学校の3校存続案について

問中学校統廃合の必要性について、部活動の多様化と専門教師の確保があるが、これは人の配置を考えれば解決する問題である。統廃合すれば、莫大な建築費に加えて校舎の跡地利用にもお金がかかり、最近行なった各学校の耐震補強工事やエアコン配備なども無駄になってしまう。無理に統廃合を急ぐべきでは無いと思う。

答市のスタンスは、「あり方検討委員会」の考え方を十分理解していただいた上で、率直なご意見をしっかりとお聴きしながら最終的な考え方をまとめていきたいということであり、今後とも皆さんのご意見を十分お聴きすると共に、中学校の現状と今後の見通しの的確な分析に努めながら、妥当な結論が得られるよう尽力していきたいと考えている。



うまいもん祭

倉田議員

山岸市政4期目の取り組み事項について

問山岸市長は、4期目に当たり8分野52項目について取り組んでいくと表明されている。これらの項目は、市長の決断次第で実施できるものと、国の認可と市の財政上からの判断が必要な事項、国・県の判断に委ねられる面が大きく市長の政治力が求められる事項があり、また抽象的表現になっている事項がある。そこで、抽象的表現になっている次の事項について、市長の意気込みを伺う。

① 地場産業の新たな振興発展を支援する。

② 新機軸の集客イベントを実施する。

答①勝山市には昔からの伝統と技術を継承した素晴らしい会社がある。そのような会社は、非衣料の分野でも相当実績をあげており、カーボンナノチューブや、電気を通す糸を織り込んで発電できる織物などを開発している。このような情報を集め、今後、勝山市が成長可能分野に支援していきたい。

②昨年の11月に観光プロデューサーを全国公募して任期付きで採用をした。1年間で「勝ち山おろ

しそば」の全国展開、大清水公園での街角ライブ、Webを活用した情報発信など成果を上げている。今も壮大な野外のライブを計画しており、このような勝山の認知度を上げるための施策を行っていく。

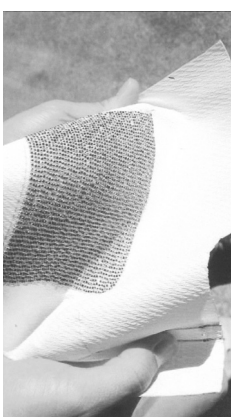
勝山市での耕作放棄地について

問勝山市内の農地の全耕作放棄地面積との中で、農振地での耕作放棄地面積はどのくらいか伺う。

また、このような耕作放棄地に対し、どのように認識し、耕作放棄地解消のためどのように取り組んでいけるのか伺う。

答平成23年度末の農委委員会の利用状況調査によると、市内全域での農地面積1865haのうち耕作放棄地面積は、12haで、農振農用地面積1660haのうち耕作放棄地面積は8haとなっている。

市は、耕作放棄地の解消を図るため、農業公社と連携し、耕作放棄地と耕作する農業者とのマッチングを進めていく。



E・テキスタイル(発電する織物)